



第35期、第36期 公務員日本語クラス修了式

上海日本商工クラブが法人格取得以前から19年間にわたり支援を継続している上海市公務員日本語クラスの修了式が11月19日に市内で開催された。本年は新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年12月から始まった第35期クラスでは、後半からオンライン授業となり、5月の修了式の開催が見送られた。また、本年6月スタートの第36期クラスでは、ほとんどがオンライン授業で開催されたため、二期分の修了式の開催は、受講者が顔を合わせる貴重な機会となった。

二期合同の修了式

修了式では、35期と36期の修了生の代表それぞれ1名が授業の感想を述べるスピーチで開会した。上級クラスを修了した受講生の日本語は大変流暢なもので、授業のレベルの高いことがうかがわれた。続いて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、第35期の半ばには日本からオンラインで授業を実施した島田先生のビデオメッセージが流れた。35期を最後に退職した島



修了証を受取った受講生

田先生の言葉に、35期の受講生たちは懐かしさで目を潤ませていた。また、36期から担当した齋藤先生



第36期の齋藤先生

は、最初から最後までオンライン授業であったため、修了式で初めて受講生とリアルで顔を合わせるようになった。修了式の最後には35期9名と第36期8名の上級クラス修了者に商工クラブの中村事務局長から一人ずつ修了証が手渡された。

日本の茶の湯文化レクチャー

修了式に続いて、日本の伝統的文化の一つである茶道について、楊元元先生から中国語でレクチャーが行われた。

形式美、主人と客、作法、侘び・寂びなどが中国語で解説された。お茶は中国から伝来したものであるが、茶室の空間、茶器、お茶と一緒に振舞われる和菓子、作法などの総合文化として日本では発達した。



レクチャー後の茶道体験

レクチャーの最後には、実際にお茶を点てる所作の披露とともに受講生にもお茶が振舞われた。既に日本への旅行の中でお茶を経験している受講生は、正座して所作通りにお茶を味わっていた。

社会貢献と文化交流

商工クラブでは、日系企業の上海での事業が少しでも容易になるようにという目的から始まった公務員日本語クラスであるが、日本語だけでなく日本の文化を中国の人たちに紹介する機会ともなっており、この事業には文化交流の側面もある。

長く続けることは「継続は力なり」という言葉にも表されるように、相互理解の促進へ大きな力になるものであろう。商工クラブでは公務員日本語クラスとともに、そこから派生した日中友好ピンポン大会などの交流活動を続けていきたいと考えている。

「公務員日本語コース」とは

「上海市政府公務員日本語コース」は、上海進出日本企業等と接点のできる政府機関の希望者に向けて、日本語の基礎会話能力の習得とともに、日本語学習を通じて日本文化への理解を深めることを目的として開講している。2001年秋から上海日本商工クラブが、社会貢献活動の一環としてFSG（上海外服）国際人材トレーニングセンター（当時FESCO）に委託して開始された。原則として春・秋の二期のコース（5か月）に初・中・上級の3クラスを設置して各80時間の授業を実施している。

開講以来19年で36期のコースを実施し、上海市政府機構の約40機関からこれまでに1,500人以上が受講した。受講修了者は、税関、統計局、税務局、民政局、商務委員会などに勤務しており、市政府機関と日本企業のコミュニケーションの架け橋となることが期待される。